

混乱続くかすみがうら市政 批判広がる！ 市民本位の市政に転換を！

求められる「丁寧で誠実な市政運営」

霞ヶ浦地区での小学校統合は完了し、児童過少の弊害は解消されましたが、千代田中学校区の4小学校（新治、上佐谷、志筑、七会）の統合問題は、統合委員会が休止されてから2年にも渡って放置されてきました。

平成25年に実施された統合委員会による各地域でのアンケートでは、その統合場所を北端の志筑小学校にする

紛糾する小学校統合

6月16日に終了したかすみがうら市議会平成28年第二回定例会で、私は「民意を基本とした市政運営に転換すべき」との提言を行いました。

なぜなら、千代田中地区小学校統合問題、さくら保育所閉所問題、ゴミ処理場新設問題など、市民の思いを無視した強引な市政運営が行われているからです。

つばさ通信

第6号

かすみがうら市議会議員みやじま謙活動報告

か、地域の中心である千代田中学校にするかについて、圧倒的多数で千代田中学案が支持され、民意は明らかとなりました。

しかし坪井市長は、志筑小学校での統合方針を転換しないまま、ずっと棚上げにしていたのです。

そんな状況の中、この5月から各小学校区で「子どもの成長を支える地区懇談会」がスタートしました。

新治、上佐谷、七会各地区での懇談会では、志筑案での決着を予定していた講師の司会進行に対し、多くの参加者から異議が出され、「アンケート結果をなぜ尊重しないのか」「なぜ2年間も放置したのか」との不満の声が噴出したのです。

私は一般質問で、「市民の声を反映させる気はないのか」と質しました。市長は「総合的に判断する」という曖昧な答弁に終

始しました。

揺れるさくら保育所

さくら保育所の閉所問題では、保護者による署名運動が展開され、存続を求める請願書が議会に提出されました。

坪井市長は市長選挙で「閉所は保護者との合意の基に決定する」と公約に掲げていたにも関わらず、その合意がないままに一方的に平成29年度末での閉所を発表、保護者から公約違反との批判が上がっているのです。

この問題を受け市議会では、請願については趣旨採択とし、加えて、保育の保障を求める決議を全会一致で可決しました。「我が子が本当に転所できるのか」「余計な費用が発生しないのか」などの保護者の不安をしっかりと解消するように、市に要請したのです。

ところが、議会閉会間もない6月18日に開催された保護者説明会では、市長の出席もなく、保護者との合意をどう形成するのかの説明も一切ありませんでした。市の姿勢は従来からまったく変わっておらず、保護者の不安を解消するどころか、不満がより強くなっています。

強硬するゴミ処理場建設

説明責任を果たさずに強硬に進められているゴミ処理場の新設問題でも、市民の意向を無視した行政が続けられています。

民意無視の姿勢を象徴するのが、新規建設計画を推進する霞ヶ浦生施設組合が1月に行ったパブリックコメント。パブリックコメントとは、行政が行おうとする施策を事前に公開し、市民からの意見を募って、施策に反映させる手続きです。

しかし現実には、行政は形式的にホームページでこっそり行うことが多く、かすみがうら市でもこれまで、平成20年から28年に31案件について行われた中、意見はたった3件しか寄せられていません。行政はこれをもつて「市民の意見は聞いた」ことにしてしまうのが通例です。

しかしゴミ処理場新設問題では、86件の意見が寄せられ、そのほとんどが建設反対を訴える内容でした。行政にとって、これは大きな誤算であったに違いありません。

私は一般質問で「これほどまでの反対があるのだから、かすみがうら市でも市民の意見を確認すべき」と求めました。坪井市長は「（パブリックコメントの意見は）一意見であり、議会の同意を得ている」として、市民の意向を確認しないと明言しました。

小学校統合、保育所閉所、ゴミ問題、いずれも私たちの生活と将来に密着した重大な問題です。丁寧に市民の声をひろい、情報を公開し、説明責任を果たす。これが誠実な市政運営の姿だと、私は強く思うのです。

千代田と出島は鳥の両翼 心合わせて羽ばたこう！

『つばさ通信』の紙名は、かすみがうら市が鳥の翼の形をしていることに由来しています。翼に偏りがあっては飛べません。千代田と出島の両地域が心ひとつに、全市一丸となって大空を羽ばたいてこそ、明るい未来が切り拓かれていくと確信するのです。



電子行政とワンストップサービス 窓口サービスの充実化を

無用な労力をどう減らすか

市民が行政に抱く不満の上位には「時間がかる」「同じような書類を何枚も書かされる」「たらいまわしにされる」「相談しても返答がこない」など、窓口サービスに関するものが多くあります。

例えば、夫婦、要介護の老人1名、小学生1名、未就学児1名の5人で転入した場合、窓口を5か所以上回り、書類を5〜10枚提出しなければなりません。当然のことながら、すべての書類に住所や氏名を記入する必要があります。

り、大きな負担になります。

行政側から見ても、同じような書類をそれぞれの課で管理しており、情報の共有化が図られておらず、無用な労力が費やされているのが現状です。

さらに言えば、所得制限のある助成金の申請などをするケースでは、税務課で納税証明書を取得し、それを同じ役所内の別の窓口へ提出する必要があるようです。これなど、庁内で情報が共有されていればまったく不要な手間であり、無駄の代表と言えるでしょう。

市民部に改革の意向無し

そこで全国的に広がっているのがワンストップサービスです。ワンストップサービスとは、役所で行う証明書の発行や申請を、一か所で行って済ませることができると言えます。

たとえば先に挙げた5人家族の転入の場合、窓口で一度、家族全員の状況を登録すれば、必要な申請や届け出はそれだけで済んでしまう、ということなんです。この実現には、各課で個別に管理している情報を電子的に一元化し、仕事の流れ自体に

ついても再構築する必要があります。これらの作業には大変な研究と労力が必要となりますが、職員一人ひとりの生産性を高め、かつ市民負担を軽減するには絶対に避けて通れない改革です。

将来的には、自宅でネットを通じて証明書発行や各種申請ができ、オンラインで決済され、自宅に配達される時代がやってきます。

私は一般質問で、ワンストップサービスを推進する意向を尋ねたところ、市民部長からは「現状の体制でいきなり」との否定的な回答でした。肝心の市民部に積極的に取り組む意向がないのであれば、わが市での実現の可能性は限りなくゼロに近いと思われる。

公共施設使用料値上げ撤回

昨年発表された、公共施設の使用料値上げ計画に対し、市民による署名運動が展開され、昨年12月議会では請願書が提出されていました。

こうした市民の値上げ反対運動を受け、市では公共料金値上げの方針を再検討していたのですが、この6月に新たな方針が示されました。

それは、健康増進や子育て支援など、市の施策に沿った活動であれば、これまでの料金負担（無料を含む）を維持できるようにする、というものです。市民の団結が市政を大きく動かしたのです。

明日への思い

私事で恐縮ですが、去る4月13日、私も夫婦が無事誕生したことをご報告いたします。3700グラムを超える大きな女の子で、お蔭さまで母子ともに元気に毎日を過ごしています。

少子高齢化が急速に進行し、人口減少対策が求められる昨今です。私の家庭で一人増えたからとて、市全体、国全体にはなんの影響もないかもしれませんが、国力は一人ひとりの積み重ね。産み、育てやすい環境づくり、本気で取り組まなければ、国の将来はありません。

さて、当市の子育て環境はと言えば、一面に書いた通りです。子育て世代が住みたい街の実現に向け、もう足踏みしている時間はありません。

TOPICKS

議事進行に異議あり！

今定例会での議案質疑の際、市長に答弁を求めたものを、議長がそれを妨げるという異常事態が発生しました。

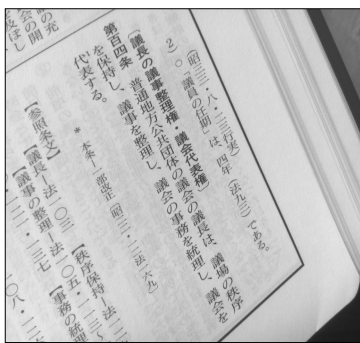
6月6日、共産党の佐藤議員が国民健康保険に関する議案に対し質問をした時のこと。議員は市長の見解を求めたので

すが、なぜか市民部長が答弁を始めました。議員は当然ながら「市長の見解を求めている」と抗議しました。

本来であれば、ここで議長は市長に答弁を促すところなんです。しかし議長は唐突に「地方自治法第百四条に基づいて市民部長を答弁者に指名します」と宣言したのでした。この日、同じことが二度も起こ

りました。第百四条は議場の秩序維持のために議長の議事整理権を規定したものです。決して議長に質疑を妨げる権限を認めただけではありません。

質問に答えない市長もまったく不誠実。加えて議長が不偏不党を逸脱したのでは、まともな議論になりません。議会の存在意義を毀損する行為です。



ブログ みやじま謙の「創ろう！かすみがうら新時代」好評発信中！

http://blog.livedoor.jp/ken_miyajima/

電子行政とワンストップサービス 窓口サービスの充実化を

無用な労力をどう減らすか

り、大きな負担になります。

市民部に改革の意向無し

行政側から見ても、

そこで全国的に広がっ

将来的には、自宅で

こうした市民の値

私事で恐縮ですが、去

市民が行政に抱く不
満の上位には「時間が
かかる」「同じような
書類を何枚も書かさ
れる」「たらいまわし
される」「相談しても
返答がこない」など、
窓口サービスに関する
ものが多くあります。

同じような書類をそれ
ぞれの課で管理してお
り、情報の共有化が図
られておらず、無用な
労力が費やされている
のが現状です。

さらに言えば、所得
制限のある助成金の申
請などをするケースで
は、税務課で納税証明
書を取得し、それを同
じ役所内の別の窓口へ
提出する必要があるま
す。これなど、庁内で
情報が共有されていれ
ばまったく不要な手間
であり、無駄の代表と
言えるでしょう。

ネットを通じて証明書
発行や各種申請ができ
オンラインで決済され
自宅に配達される時代
がやってきます。

それは、健康増進
や子育て支援など、
市の施策に沿った活
動であれば、これま
での料金負担（無料
を含む）を維持でき
るようにする、とい
うもの。市民の団結
が市政を大きく動か
したのである。

明日への思い
4月13日、私も夫婦
が無事誕生したことを
報告いたします。370
0グラムを超える大き
な女の子で、お蔭さ
までも元気に毎日を
過ごしています。

例えば、夫婦、要介
護の老人1名、小学
生1名、未就学児1名
の5人で転入した場合
、窓口を5か所以上回
り、書類を5〜10枚
提出しなければなら
ません。当然のこと
ながら、すべての書
類に住所や氏名を記
入する必要があります。

制限のある助成金の
申請などをするケー
スでは、税務課で納
税証明書を取得し、
それを同じ役所内の
別の窓口へ提出する
必要があります。こ
れなど、庁内で情
報が共有されてい
ればまったく不要な
手間であり、無駄の
代表と言えるでし
ょう。

この実現には、各課
で個別に管理してい
る情報を電子的に一
元化し、仕事の流
れ自体に

私は一般質問で、ワ
ンストップサービスを
推進する意向を尋ね
たところ、市民部長
からは「現状の体制
でいきなり」との否
定的な回答でした。
肝心の市民部に積
極的に取り組む意
向がないのであれば
、わが市での実現の
可能性は限りなくゼ
ロに近いと思われ
ます。

それは、健康増進
や子育て支援など、
市の施策に沿った活
動であれば、これま
での料金負担（無料
を含む）を維持でき
るようにする、とい
うもの。市民の団結
が市政を大きく動か
したのである。

少年高齢化が急速に
進行し、人口減少対
策が求められる昨
今です。私の家庭で
一人増えたからと
て、市全体、国全体
にはなんの影響もな
いかもしれません。
でも、国力は一人ひ
とりの積み重ね。産
み、育てやすい環境
づくりには、本気で
取り組まなければ、
国の将来はありません。
さて、当市の子育
て環境はと言えば、
一面に書いた通り
です。子育て世代が
住みたい街の実現に
向け、もう足踏みし
ていない時間はない
でしょう。

議事進行に異議あり！

今定例会での議案質疑の際、市長に答
弁を求めたものを、議長がそれを妨げる
という異常事態が発生しました。

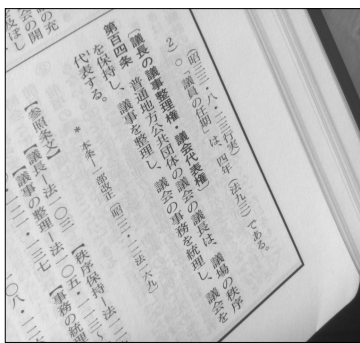
6月6日、共産党の佐藤議員が国民健
康保険に関する議案に対し質問をした時
のこと。議員は市長の見解を求めたので

すが、なぜか市民部長が答弁を始めまし
ました。第百四条は議場の秩序維持の
ため、議長は当然ながら「市長の見解を求
めている」と抗議しました。

本来であれば、ここで議長は市長に答
弁を促すところです。しかし議長は唐突
に「地方自治法第百四条に基づいて市民
部長を答弁者に指名します」と宣言した
のです。この日、同じことが二度も起こ
るのではありません。

決して議長に質疑を妨げる権限を認め
たものではありませ

質問に答えられない市長もまったく不誠実
に加えて議長が不偏不党を逸脱したのでは
、まともな議論になりません。議会の存在
意義を毀損する行為です。



ブログ みやじま謙の「創ろう！かすみがうら新時代」好評発信中！

http://blog.livedoor.jp/ken_miyajima/